

「2025 長期ビジョン」の概要

タツタは、電線・電子材料関連のフロンティアを開拓し、
ニッチトップのサプライヤーとなり、独創的な先端部品・素材を供給する。

2017年5月12日
タツタ電線株式会社

**本資料における将来の予測等に関する各記述は当社が現時点で入手可能な情報に基づく判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。
したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。**

本資料に関するお問い合わせ先

タツタ電線株式会社

経営企画部

TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300

<http://www.tatsuta.co.jp/>

1 2025 長期ビジョン（総括）

成長追求事業	ペースト事業 (半導体パッケージ用、車載基板用等) 医療機器部品・材料事業 (高機能チューブ類、シングルユース電極類等)	積極的に開発投資、増産投資等を実行して、規模の拡大、利益の拡大を追求する。
利益追求事業	通信電線事業、機能性フィルム事業、 国内機器用電線事業、ファインワイヤ事業、 システムフォト事業、環境分析事業	効率化投資の推進、高マージン商品へのシフト等により、回収利益の最大化を追求する。
中長期育成事業	海外機器用電線事業	当面事業基盤整備に注力し、基盤整備の確認後、増産投資を実行して、将来的に規模の拡大、利益の拡大を追求する。

2025年度には、高い収益率を維持しつつ、現状の1桁上の規模(売上高1,000億円、営業利益100億円)を併せ持つ企業集団となることを目標とする。

設備投融资枠 9年間合計 730億円

2 長期ビジョン策定の目的

- 70周年という節目
- シールドフィルム減益リスクの現実化
- 研究開発・事業開発の進展成果（重点新規事業・商品の特定化）

2025 長期ビジョン

今後9年間の積極的な研究開発、事業開発の指針

需要の拡大が期待できる分野であって、かつ、タツタ電線グループの強みを発揮できる分野を特定し、それら分野にタツタ電線の総力を結集

3 2025 タツタ電線のありたい姿（1/3）

IoTやロボット、車載基板、医療機器などの分野においては、電線や電子材料などの部品・素材に対するニーズが細分化しつつ、高度化

タツタ電線グループの強み

技術

導電体・絶縁体等に関する広範、総合的な技術開発力・生産技術力・品質管理力

設備

少量・多品種生産に適した規模の充実した保有設備

文化

顧客に密着し、顧客ニーズを最優先とする先端技術・製品開発志向

電線固有技術

導電体技術

- ・ 鋳造・伸線技術
- ・ 撚線技術
- ・ 合金技術
- ・ 金属粉表面処理技術
- ・ 金属加工技術 …

絶縁体技術

- ・ 樹脂配合技術
- ・ 押出技術
- ・ 被覆技術 …

発展・派生技術

光ケーブル技術

光制御技術

微細ワイヤ技術

ラインセンサー技術

金属ペースト技術

機能性材料薄膜化技術

樹脂加工・成型技術

分析・評価技術

関連製品分野

- ・ インフラ用電線
- ・ 産業機械用電線
- ・ 精密機器動力系電線
- ・ 精密機器制御系電線
- ・ 医療用電線・電極
- ・ ボンディングワイヤ
- ・ 医療用チューブ
- ・ 電磁波シールドフィルム
- ・ 導電性金属ペースト
- ・ 漏液センサー、各種センサー
- ・ 光ケーブル・コネクタ …
- ・ 環境分析 …

3 2025 タツタ電線のありたい姿（2/3）

【定性的なありたい姿】

電線と電子材料、また、それらに関連する部品・素材事業分野において、グローバルに事業を展開し、特に、ニーズが細分化・高度化しつつ拡大するIoTやロボット、車載機器、医療機器向けなどのフロンティアを開拓し、複数の先端領域商品(Advanced & Niche)でトップシェアサプライヤーとなり、顧客から信頼されている。

「先端領域」

- 先端技術・ニーズに基づく領域であり、（Advanced）
- 特定の目的に特化した狭い領域。（Niche）

3 2025 タツタ電線のありたい姿（3/3）

【定量的な姿】

高い収益率を維持しつつ、現状の1桁上の規模を併せ持つ企業集団

	2025 目標	(2016 実績)
売上高	1,000億円以上	(491億円)
営業利益	100億円以上	(42億円)
経常利益	100億円以上	(43億円)
総資産	1,000億円以上	(471億円)
純資産	650億円以上	(381億円)

	2025 目標	(2016 実績)
売上高営業利益率	10%程度	(8.7%)
総資産営業利益率	10%程度	(9.3%)
純資産純利益率	10%程度	(9.0%)
DELシオ	0.5以下	(0.03)

9ヵ年合計設備投融資枠 730億円
(14～16予算計上額合計100億円比 2.4倍)

4 各事業の展開方針（1/2）

成長追求事業

ペースト事業
（半導体パッケージシールド用、車載基板用等）、
医療機器部品・材料事業
（高機能チューブ類、シングルユース電極類等）

市場の大幅な伸長が期待され、かつ、当社が圧倒的な競争力を有する事業
⇒ 成長を追求していく事業、積極的に開発投資、増産投資等を実行する

利益追求事業

通信電線事業、機能性フィルム事業、
国内機器用電線事業、ファインワイヤ事業、
システムフォト事業、環境分析事業

市場の大幅な伸長は期待できないものの、当社が圧倒的な/相当以上の競争力を有する事業
⇒ 既存事業の回収利益最大化を追求していく事業、投資は効率化等が中心

中長期育成事業

海外機器用電線事業
（精密機器制御系電線、精密機器動力用電線）

市場の伸長は期待できるものの、当社が相当以上の競争力を獲得するためには
相当期間を要する事業

⇒ 当面、事業基盤整備、競争力強化に注力し、成長投資は成果見極め後に実行する

4 各事業の展開方針（2/2）

【2025 事業ポートフォリオ】 （営業利益）

通信電線事業：	20%
機能性フィルム事業：	25%
機器用電線事業(国内・国外)：	20%
FW・システムフォト・環境分析事業：	10%
医療機器部品・材料事業：	10%
ペースト事業：	35%
技術開発、その他：	△20%

5 成長追求事業「ペースト事業」戦略

【事業環境】

- ・ IoTやAIの進展、自動車自動運転化等に伴う半導体の高速大容量伝送化、車載用途向けの拡大・多様化により、半導体パッケージのシールド用途、実装用途、放熱用途等において導電性ペーストへの期待・ニーズが高まっている。

【当社の強み】

- ・ 電磁波シールドフィルムにおける導電性ペーストの製造実績、需要業界とのネットワーク
- ・ 多種・多様な製品ラインアップ、フレキシブルな製品企画開発力
- ・ 多層基板における層間接続用導電性ペースト関連特許(導電性ペーストを層間接続材に使用したプリント基板の製造に関する特許)の保有

【事業拡大戦略等】

- ・ 半導体パッケージシールド・放熱・積層用、配線・部品実装用、車載基板放熱材用ペースト、車載向け新基板材料の開発等
- ・ ペースト塗布装置メーカーとの協業によるトータルソリューション提案、デファクトスタンダード化

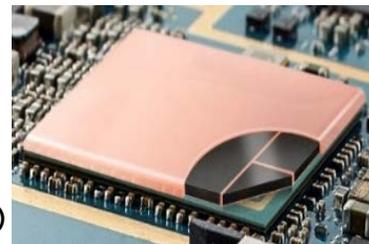
<参考>

半導体パッケージ開発製品イメージ

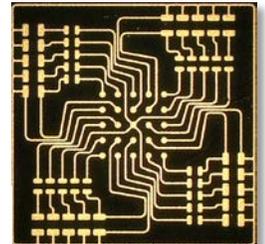
(17年度
販売開始予定)
(積層ペースト)



(18年度
販売開始予定)
(シールドペースト)



(18年度
販売開始予定)
(配線ペースト)



6 成長追求事業 「医療機器部品・材料事業」戦略

【事業環境】

- ・ 医療機器向けマーケットは総じて日本、世界とも堅調拡大
- ・ 総じてポテンシャルを有した市場だが、ニッチ製品市場の集合体でもあり、個別製品や国毎に事業・競合環境は異なる

【当社の強み】

- ・ 電線、電子材料事業により培った樹脂成型技術、精密電線技術
→ ターゲット分野は、高機能チューブ類、シングルユース電極類等
- ・ 漏水センサー事業により培ったセンシング技術

【事業拡大戦略等】

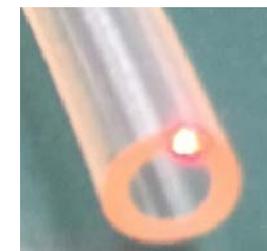
- ・ 独自開発の成型技術による高機能チューブ類等の販売立上げ、拡大
- ・ 独自素材・技術を活かせる製品群(シングルユース電極類、各種センシング機器等)の連続的市場投入
- ・ 大手医療機器メーカーとの協働(OEM/ODM生産)による販路確保
- ・ 一部定型規格品の独自販売

<参考>

高機能ハイブリッドチューブ類



(電線複合チューブ)



(光ファイバ複合チューブ)

7 2025に向けたロードマップ

期 間	主要課題	目標 営業利益	3年間 投融資枠
第1期 (2017-2019)	<p>基盤整備期間</p> <p>成長追求事業: 試作販売開始 利益追求事業: 効率改善・コスト削減 中長期育成事業: 拡販(競争力構築)</p> <p>半導体パッケージシールド用ペースト、 高機能チューブ等販売開始</p>	19年度 50億円	210億円
第2期 (2020-2022)	<p>新製品量産化期間</p> <p>成長追求事業: 量産販売開始 利益追求事業: 効率改善・コスト削減 中長期育成事業: 増産体制整備</p> <p>車載基板用ペースト、 高機能ハイブリッドチューブ等販売開始</p>	22年度 70億円	240億円
第3期 (2023-2025)	<p>新製品増産・収益貢献期間</p> <p>成長追求事業: 増産・拡販 利益追求事業: 効率改善・コスト削減 中長期育成事業: 増産・拡販</p>	25年度 100億円	280億円

8 その他諸施策

資金政策

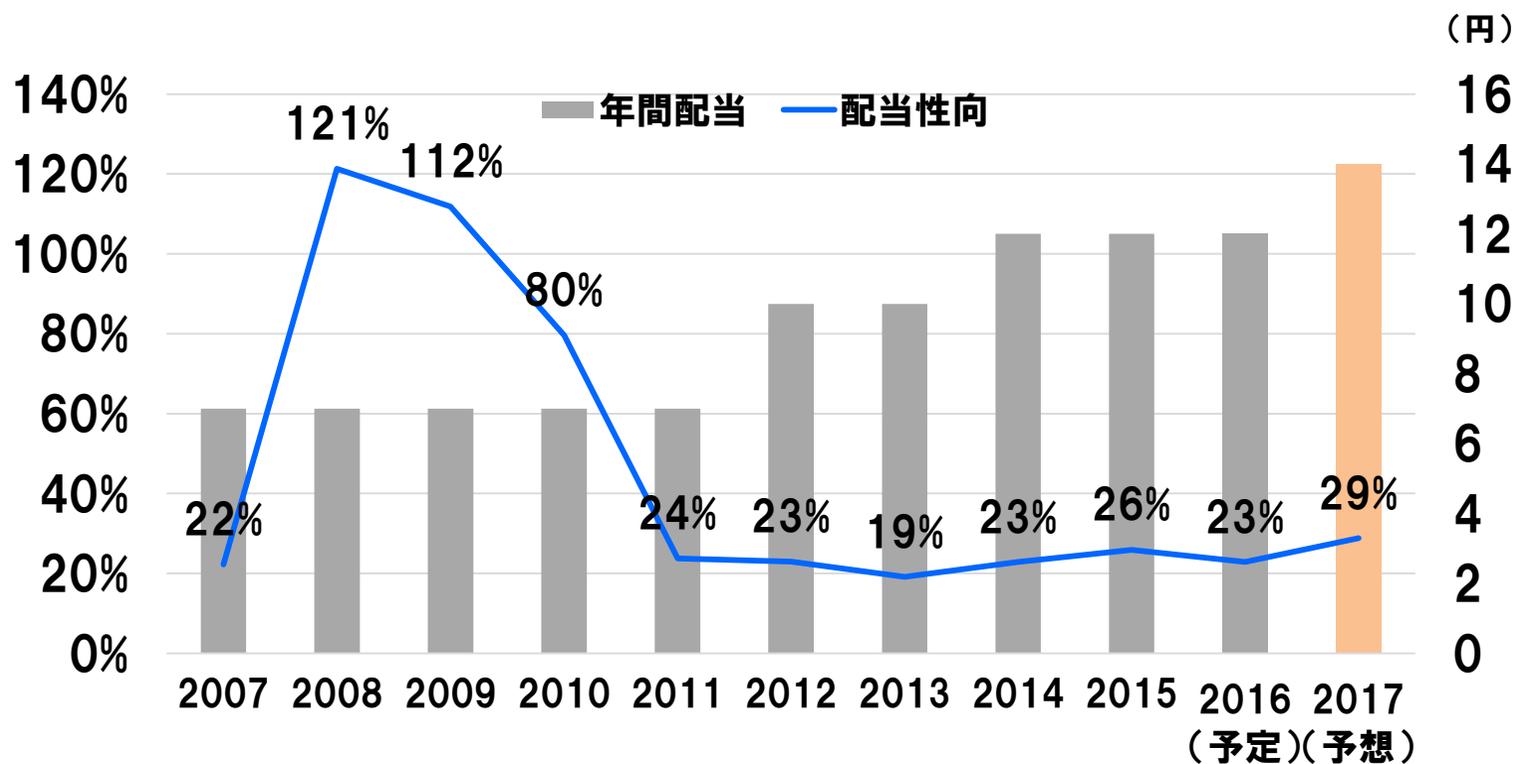
設備投資を営業活動によるキャッシュフローから
配当金の支払い等によるキャッシュアウトを差し引いた
フリーキャッシュフローの範囲内で行うことを原則としつつ、
大型投融資等のために必要ある場合は、DEレシオ0.5以下の範囲内で
借入金による資金調達も実行することを基本とする。

事業推進体制等

- ・新規事業開発推進体制の強化
(2016.4 医療機器事業推進室設置、2017.4 ペースト事業推進室新設
⇒ 事業化進捗に応じて更に体制変更を実施)
- ・事業推進体制の強化
⇒ 設備投資決裁権限等の各事業単位への権限移譲推進等

9 配当方針

配当性向30%を目安としつつ、安定的な配当を継続することを基本とし、各年度の剰余金の配当等の決定は、業績の動向、設備投資の見通し等を総合的に勘案したうえで決定することを基本方針とする。



10 経営理念・2025長期ビジョン方針

経営理念

タツタ電線グループは、電線・電子材料関連分野において、顧客ニーズにマッチした特長ある製品・サービスを提供することにより、持続的な社会の発展に貢献します。

2025長期ビジョン方針

タツタは、電線・電子材料関連のフロンティアを開拓して、ニッチトップのサプライヤーとなり、独創的な先端部品・素材を供給する。